

Tiara

看護情報誌ティアラ 2020年4月

Nursing 最前線 ● 岩手医科大学附属病院「後編」

院内が一体となり行った

新病院移転計画

施設を運用しながらも

スムーズな搬送を実現

SCOPE 注目の話題 ● 地域医療教育センター

臨床さながらの体験が可能

埼玉県内の

医療従事者の教育をサポートする

「地域医療教育センター」

TOPICS

知識・技術・態度を修得

「IVナース指導者養成研修」レポート①



院内が一体となり行った 新病院移転計画 施設を運用しながらも スムーズな搬送を実現

岩手医科大学附属病院 [後編]

岩手県唯一の大学病院としてより充実した医療提供を行うため、2019年9月に新たな施設で再スタートした岩手医科大学附属病院。11km離れた新たな場所への移転プロジェクトは、2016年10月からおよそ3年をかけて進行されました。そこには、入院患者さんの安全な移送を最重要テーマに、移転当日まで着実に計画を進めていったスタッフたちの姿がありました。



1

2



患者さんを安全に搬送する スケジュールの作成・管理を

今回の移転では、旧病院を運用しながら新病院を作り上げ、医療を途切れさせないような移転と同時に安全に稼働させることが重要です。そのため、スケジュールの作成・管理は大きなポイントでした。

「2018年末からは、半年間のスケジュールとともに月間スケジュールが配られ、月1～2回の定期会議で共有されました。スケジュールは『イベント』『診療体制』『搬送』『リハーサル』などに分かれており、これに沿って各部署が役割を果たしていきました」(看護部長・佐藤悦子さん)

スケジュールを立てるため、まずは比較的軽症の

患者さんの転院・退院を進め、当日の搬送数を減らすための調整を行いました。隣県(秋田・青森・宮城)の病院に一時転院を依頼したケースもありました。その結果搬送対象は、主に脳外科・消化器外科・小児科領域の重症度の高い患者さん114名となりました。これらの患者さんについては、重症度基準を作成して分類し、PaO₂などのデータ、呼吸器の装着、体調などをチェック。移転当日まで状態に応じて対応方法を調整しました。

岩手県高度救命救急センター師長で災害看護委員長でもある高橋弘江さんは、患者搬送フローの組み立てを担当。「今回の患者搬送には災害看護の視点が必要。これだけ大きな病院機能が患者さんと共に移動することは『病院避難』と同様のイベントが発生



3



4

1. 移転当日の搬送の様子。新病院入り口では搬送を受け入れる入口調整担当が患者さんの情報をチェック
2. 入口調整担当から院内搬送担当にバトンタッチ
3. 写真左から) 高橋弘江岩手県高度救命救急センター師長、安保弘子副看護部長、佐藤悦子看護部長、千葉香副看護部長、出口育美副看護部長
4. 総合移転計画事務室の皆さん



- 5. 自衛隊をはじめ関係協力機関の力もあり移転プロジェクトはスムーズに進行
- 6. 移転当日は街中で救急車が連なって走る様子もみられた
- 7. 移転に際しては新病院と旧病院のそれぞれに本部が置かれた。写真中央左に立つ久保田桜さんは副看護部長として旧病院本部で活躍。現在は附属内丸メディカルセンター総看護部長を務める



することを意味します。移転プロジェクトでは施設の運用と搬送の両輪が上手に機能することが大切。その架け橋となることを考えました」といいます。

7月と8月に2回行ったリハーサルの結果も見直しながら、スケジュールや体制の調整は搬送当日まで進められました。

移転当日スケジュールは順調に進行 搬送後も気を抜かずに管理を

2019年9月21日の移転当日は、午前8時に旧病院からの搬送がスタート。入院患者さんの搬送に携わった人員は、新旧2つの病院で患者さんの搬入・搬出を担当する計約600名、移転の核となる車両移送に約330名が配置され、本部も含めて1200名を数えました。自衛隊、消防、警察、医療機関、民間救急、タクシー協会の人員・車両による協力に加え、外出を控えるなど住民による協力もあり、予定の19時よりも早い15時50分で搬送を終了することができました。

しかし、医療・看護は搬送して終わりではありません。「重症度の高い患者さんばかりでしたので、気が抜けませんでした」と、副看護部長の出口育美さん。看護部では、病棟用に「移転搬送前後のフロー」を作成。搬送までに行うこと、当日の搬送前・開始時・車内・到着後・帰還準備とやるべきことをフローにまとめて活用し、新病棟での継続した管理につなげました。

新病院移転プロジェクトにより 得たものをこれからの看護に生かす

新病院の建設・移転を終えて、副看護部長の千葉香さんは「建物づくりから看護の視点でかわるこ

とができました。いい看護を提供したいというスタッフの声が伝えられました」と充実感を滲ませます。

「病院は職員一人ひとりで作るものだと感じました。これまであまり関心がなかったこと、自己ルールでやっていたことを、全病棟・全職員で統一していく大切さを確認できました」（出口さん）

新病院がスタートを切り、通常役割に意欲をみせるのは教育を担当する副看護部長の安保弘子さん。「今回の経験で実感した人材育成の大切さを、院内研修や看護学生の受け入れなどに生かし、人づくりをやっていききたいと思います」と話します。

「転院をお願いした患者さんが戻り始め、1000床がほぼフル稼働の状態になってきました。ある意味移転後の混乱期。でも大きな仕事を成し遂げたスタッフと共によく乗り越えていけると思っています」と、佐藤さんも移転によって強まった信頼に手応えを感じているようでした。



DATA

岩手医科大学附属病院

- 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1
- <https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/yahaba/>
- 開設 ●1936年 病床数 ●1000床
- 職員数 ●2200名
- うち看護師1203名（2019年現在）
- 看護配置 ●一般病棟7：1
- 特定機能病院／岩手県高度救命救急センター
- ／基幹災害拠点病院／がん診療連携拠点病院
- ／肝疾患診療連携拠点病院／総合周産期母子医療センター



埼玉県内で勤務する医療従事者のための「地域医療教育センター」

臨床さながらの体験が可能

埼玉県内の医療従事者の教育をサポートする「地域医療教育センター」

埼玉県総合医局機構では、県内に勤務する医療従事者を支援するために2017年から「地域医療教育センター」を始動させました。さまざまなシミュレーターや医療機器、仮想の病室や診療室を備えた専用の施設で、医療従事者が研修・講習会等の目的で利用するほか、センターの企画による研修も実施しています。年々利用者を増やしているその施設の実際をご紹介します。

医師の不足・偏在解消のため 埼玉県総合医局機構を組織

高齢社会となり医療ニーズが高まるなか、医師不足・偏在はわが国における深刻な問題となっており、埼玉県もまた例外ではありません。しかし同県には国公立大学の医学部がないことから、行政がほかの機関と連携して医師の確保を図っていく必要があるとし、そのコントロールタワーとして埼玉県総合医局機構（以下、機構）が2013年に組織されました。行政のほか、埼玉県医師会、埼玉県立大学、県内医療機関、県内医科大学、関係団体が参画しています。

機構の取り組みは「医師の確保・派遣」「医師の支援」が2本柱です。

「医学生への奨学金の貸与、研修医・専攻医への研修資金の貸与、医師バンクの運営などの一方で、医師のキャリア形成支援、女性医師の復職支援、そして地域医療教育センターの設置・運営を行っています。事業ごとに、医師確保・派遣委員会、医師キャリア形成支援委員会、地域医療教育センター委員会を設け、参画している団体・機関の多職種の方々から意見をいただいて、内容を検討・実施しています。地域医療教育センターについては、看護職の視点も積極的に取り入れています」と話すのは、埼玉県保健医療部医療人材課主幹の川野辺健志さん。機構では、特に著しく不足する産科、小児科、救命救急センターの医師の充足を目指しており、奨学金や研修資金の貸与については、一定要件を満たすと返還が免除になります。制度の利

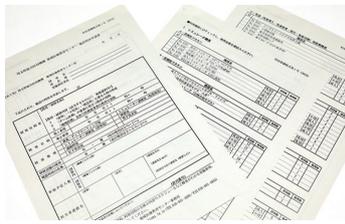
用者は着実に数を増やし、2030年には制度を利用した医師は400名を数えると予測しています。

地域医療教育センターでは リアリティある研修が可能

機構の取り組み「医師の支援」の象徴的な存在となっている地域医療教育センター（以下、センター）は、2017年にオープンしました。これは、県内医療機関に勤務する医療従事者のための教育・研修施設。教育・研修の方針として「医師の確保が困難な『産科』『小児科』『救急科』の人材育成」「在宅医療など多職種連携によるチーム医療に関する教育」「地域医療を担う県内医療従事者の研修の実施」を掲げています。医師に限らず、看護職、理学療法士、薬剤師などさまざまな職種の利用が可能です。

センターは、JRさいたま新都心駅と歩行者用デッキで結ばれている埼玉県立小児医療センターの8階に位置しており、交通の便に恵まれた立地です。講義・ディブリーフィング室、研修室、カンファレンス室、シミュレーター訓練室（仮想病室、診察室）から成り、用途に応じて使用することができます。

高規格シミュレーター、気管支・消化器内視鏡シミュレーター、呼吸音聴診シミュレーター、超音波診断装置などが導入されており、そのほかさまざまな医療機器を装備。特に、救命救急や集中治療などの高度医療教育・研修に活用できる高規格なものも含め、シミュレーターは160種余りを有し、リアリ



センターの利用には所定の申請書による申請が必要

ティのある研修が可能になっています。

「オープンから2年余りになりますが、利用件数は増えてきています。2017年度の272件が、2018年度には410件となり、1日1件以上利用されていることとなります。利用人数も2018年度には1万4489人を数えました」

センターの利用状況を説明してくれた地域医療教育センターの松村浩さんは、利用人数の内訳にも言及しました。研修医を含む医師が2017名、看護職が7146名、薬剤師が602名、そのほかの医療職が4724名で、看護職にも積極的に活用されていることを示してくれました。

「医師の場合は救急蘇生、縫合、マイクロ手術、超音波診断など、看護職は注射、吸引、体位変換、感染管理、救急蘇生などで利用されることが多いですね。当センターでは自主企画による研修も実施しています。その内容は多岐にわたり、多職種がメンバーとなっている地域医療教育センター委員会が年度ごとに計画しています」(松村さん)

2018年の実施例としては、小児2次救命処置研修(PALS)や母体救命公認研修(J-CIMELS)、内科救急研修(JMECC)などの協会・学会認定取得研修、医療安全研修(Team STEPPS)、急変患者対応シミュレーション研修、在宅医療研修、胎児心エコー勉強会、高規格シミュレーター教育プログラムなどが挙げられます。

さまざまな用途での利用実績 看護職も積極的に活用を

センター内は白を基調とした明るい雰囲気。更衣室もあり、休憩などに利用できるラウンジを挟んで、研修スペースが効率よく配置されています。取材当日は、看護教員を目指す人のための「埼玉県専任教員養成講習会」が行われていました。2019年8月までに利用した団体数は145団体に及ぶといえます。

「県内医療機関の新人看護師研修や埼玉県看護協会による再就業技術講習会、多職種による症例検討会などさまざまなかたちで利用されています。看護職の皆さんにも学びの場としてどんどん活用してもらえたらと思っています」(松村さん)



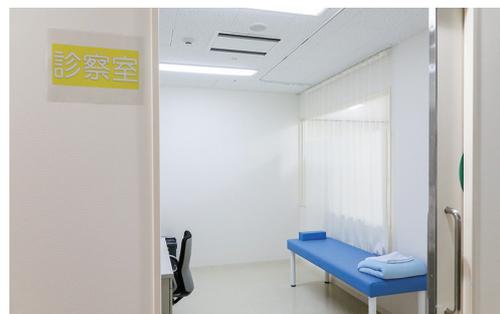
取材当日に行われていた「埼玉県専任教員養成講習会」の様子。看護教員を目指す皆さん



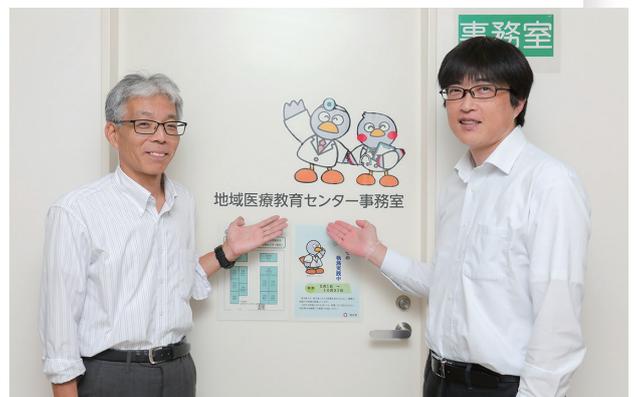
学会認定資格取得のための「母体救命公認講習会」。医師、助産師、看護師らが受講



多職種が参加しての「医療安全講習会(Team STEPPS)」の様子



実際の診察室を模したセンター内の研修室



(左から) 松村浩さんと川野辺健志主幹

TOPICS

知識・技術・態度を修得 「IVナース指導者養成研修」レポート①



5・6日目の研修はグループに分かれて受講



講師の政岡祐輝先生

静脈注射や静脈路確保、輸液管理を安全で確実にできる知識と技術を有することを認定された看護師「IVナース」の育成は、各医療機関で積極的に進められています。半面、その指導者の育成となると十分であるとはいえません。このような状況を受け、ニプロ株式会社では、2019年度新たに「IVナース指導者養成研修」をスタートさせました。この研修の様子を今号と次号の2回にわたってご紹介します。

IVナースの院内指導を支える 新たな研修がスタート

「IVナース指導者養成研修」は、各医療機関で充実したIVナースの育成が図れるよう、その指導に必要な知識やスキルを身につけてもらうための研修です。プログラムは、国際医療福祉大学成田病院看護部長の道又元裕先生が総監修を担当。ほかに臨床で活躍している6名のエキスパートが講師を務め、IVナース指導者として必要な知識・技術・態度が修得できる内容構成になっています。静脈注射等に必要な手技・管理についての知識と技術

のほか、教育体制や教育技法、指導プログラムの作成についても学ぶことができます。

2019年度の研修は、9～12月の土・日曜6日間の日程で行われました。東京、神奈川、青森、石川など全国から特に興味をもたれて集まった9名の看護師のみなさんが受講。講義は、座学だけでなく、演習やロールプレイング、グループワークなどが取り入れられています。プログラムが進行するにつれ、受講者の間には一緒に学ぶ仲間としての意識も芽生え、研修に対する意欲も高まったようです。

独自のプログラムで 必要な知識とスキルを学ぶ〈研修5日目〉

2019年度研修の最後となる5・6日目は、11月30日、12月1日で行われました。両日の講師を務めたのは、国立循環器病研究センターに勤務する教授システム学修士の政岡祐輝先生です。ほかに5～6名のファシリテーター（進行を円滑にして目的を達成できるよう中立的な立場から働きかける役割を担う）らが、受講生をサポートしました。

研修5日目のテーマは「IVナース院内指導に必要な知識とスキル」。政岡先生は「効果的・効率的に学ぶためには、『学習目標』・『評価方法』・『学習方略』の整合性をとることが重要」と述べました。そして、研修では知識を得る(INPUT)だけでなく、それを実際に活かせるように処理・加工して(THROUGHPUT)、実践する(OUTPUT)ところまでトレーニングすることが有効であるとしました。今回の研修では、この考え方のもと、受講者が自ら考え、動き、学ぶことを中心に講義が行われました。

5日目の午前中には、コーチングスキルやラー

2019年度「IVナース指導者養成研修」

開催日：2019年9月14日・15日、10月26日・27日、
11月30日・12月1日（全6日間）

研修場所：医療研修施設 ニプロ iMEP

【プログラム】

総監修：道又元裕先生（国際医療福祉大学成田病院 看護部長）

事前学習	eラーニング
1日目	IVナース指導者養成概論
2日目	シミュレーション教育とは 効果的なチーム作りを目指した医療安全教育
3日目	安全な手技・輸液管理を目指して 各血管デバイスの手技や管理のポイント① (中心静脈カテーテル、PICCの取り扱い、中心静脈ポートの管理) 安全な手技・輸液管理を目指して 各血管デバイスの手技や管理のポイント② (患者への説明と指導、採血、抹消血管確保)
4日目	安全な手技・輸液管理を目指して 各血管デバイスの手技や管理のポイント③ (輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い) 安全な手技・輸液管理を目指して 各血管デバイスの手技や管理のポイント④ (皮膚障害の予防、急変時の対応、アナフィラキシーショック)
5日目	IVナース院内指導に必要な知識とスキル
6日目	IVナース院内指導プログラムの作成と実施

ロールプレイングによる
研修



受講者は模擬指導者、
模擬学習者、模擬評価者になる

ニングファシリテーションなど研修の企画・実施にあたって知識やテクニックの講義がありました。その後、個々の受講者が準備してきた研修プログラムに基づいて演習を行いました。グループごとに受講者は模擬指導者・学習者・評価者となり、模擬患者に扮したファシリテーターも交えて、ロールプレイングを実施。演習後、コーチングスキルを生かしているか、フィードバックにつながる指導ができているかなどを確認しました。

午後には、午前中のロールプレイングを受けて、教育に欠かせない評価方法のツールであるチェックリストを作成。さらにそのリストを活用して技術研修を行い、受講者が目指している研修プログラムにリストが適しているかを検証しました。

実際の指導場面を想定しての演習・実習に、最初は戸惑いもみられた受講生たちでしたが、グループの仲間と一緒に取り組むうちにリラックス。積極的に意見交換する様子がみられました。

医療研修施設 ニプロiMEP (アイメップ)

医療安全の充実と医療者の問題解決能力およびスキルの向上を支援するため、医療職者向けの専門的研修施設として開設されました。模擬病室(個室・4名室)、日本家屋を模した在宅医療・介護研修が可能な研修室、X線シネアンギオ室などの研修室に加え、高規格シミュレーターや各種医療機器を備え、さまざまな研修に対応できます。看護職向けの各種研修も行っています。



個室模擬病室

滋賀県草津市野路町3023
<https://www.nipro.co.jp/corporate/imep/>

Let's
看護
みかき

看護の学びに
役立つ情報を紹介します

vol.10



みなさんは「教え方」について体系的な教育を受けたことはありますか。この実地指導コースは、OJTを担当する看護師が必要なスキルを習得するもの。コース設計には教育学や教育工学の専門家が携り、ロールプレイングを交えながら実施。実地指導に必要なコン

ピテンシー(高い業績や成果につながる行動特性)が着実に身につけられるよう工夫されています。

ナースのための教え方スクール (実地指導コース)

主催：関西クリティカルケアコミュニティ
開催地：兵庫県神戸市 日程：2020年5月9日～6月21日(4日間)
※詳細はホームページを参照

<http://kansai-ccc.jp/ナースのための教え方スクール-実地指導者コー/>

ナースが地域の自慢のおみやげをご紹介します!

\自慢の/

おみやげ
Collection

今回の推薦者

医療研修施設 ニプロiMEP
課長
川口雅代さん

vol.10
滋賀県 三連星

創業100年以上の老舗酒蔵の新ブランド。湖の国で知られる近江の水と米から作られ、すっきりと飲みやすい口当たりです。純米吟醸を冷やでいただくのがお気に入り。オススメです。

三連星 純米吟醸(白) 山田錦
1.8L 3200円(税別)
720mL 1600円(税別)
美富久酒造株式会社
0748-62-1113



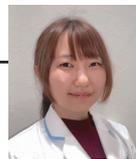
心のモヤモヤを
スッキリ解決!

ナースの ストレス攻略術

vol.7

解説

ベスリクリニック
臨床心理士
泉本まり子さん



今回のストレス

担当の男性患者さんから必要以上の好意を示されます。
嫌でたまらず、うまくかかわれません。

患者さんからの好意は距離を取りづらいですし、仕事もしづらく、負担になってしまいますよね。

患者さんから治療者に対して向けられる好意を、精神分析においては「転移」と呼び、過去に体験した感情をほかの人に向けていると考えられています。その患者さんはあなたと接しているなかで、両親、家族、恋人などの関係のなかで抱いていた感情を向けていたり、無意識のうちに叶わなかった欲求を満たそうとしているのかもしれない。対応としては、患者さんからの好意をそのまま受け止めすぎず、患者さん自身に何か別の問題があるのだと見守る姿勢が大事になります。

しかし、嫌な気持ちのままでは仕事がつらいことと思います。このような場合は、「自分以外のスタッフも対応するようにして接触の頻度を減らす」「自分は仕事としてかかわっていることを明確にする」「患者さんが何か行動に移し始めたら相談できる人を決めておく」など、段階ごとの対処法をあらかじめ用意しておくで安心です。

一方で、治療者側から患者さんに向けた転移した感情を「逆転移」といいます。その嫌悪感は、もしかしたらあなたが日常的または過去に誰かに抱いていた感情かもしれない。その患者さんの何に嫌悪感を抱いているのか、自分の気持ちを整理してみることも必要でしょう。

好意をそのまま受け止めてしまわずに
患者さんが何か問題を抱えていないか見守る姿勢で。

**医療研修施設
ニプロ
iMEPに
行ってきました!!**

新人ナース
「たのしみ〜」

ベテランナース
「うーん、いいね!」

「せっ先輩〜!! エラー音が止まりません!!」

「この部屋では、患者さんの状態を細かく設定して、実際の急変時にどう動けばよいかをシミュレーションできるのよ。現場に近い状況で研修できて、新人ナースにもってこいね。」

「一軒家のようにあって、ポータブルトイレや、隣にはバス、キッチンも揃っているのよ。実際の状況に近い形で研修できるの!」

「在宅用のトレーニングルームもあるんですね。」

「ここでは主に薬剤師さんが研修をするのよ。調剤をするためのクリーンベンチもあるのよ。」

「こんな感じですかね?」

「コラ! 遊ばないの!」

施設 DATA

「医療研修施設 ニプロiMEP」

〒525-0055 滋賀県草津市野路町3023番地
3階建て 研修室数16室

各研修室には最新の同時録画装置を設けており、館内でのライブ配信学習、録画振り取り学習はもとより、WEB回線を用いることで世界中に配信も可能

医療関係者向け講習会のお知らせは下記よりご確認ください
(URL)
http://med.nipro.co.jp/imep_society

NIPRO